

## ネットワーク構造分析と研究開発拠点マネジメント

名前：宮下修人

所属：東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学系

専門分野・キーワード：技術経営、計量書誌学、組織間連携

自己紹介：戦略的な研究開発拠点マネジメントを行うための「軍師」の機能を組織的・制度的に実装することを目指しており、データを活用した研究拠点の運営に興味がある方との連携を希望しております。



大学と産業界の連携等によるオープンイノベーションの重要性は広く認識されており、社会実装を促進するためのオープン指向の研究開発のための組織・制度の整備が待望されている。革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM, COI プログラム)に代表されるような大型の研究開発プロジェクトにおいて、異分野での組織間連携が実践されているが、このような組織・制度を適切に管理・運営するための方法論は未確立であるのが現状であり、理論構築と実践への活用が急務となっている。本研究では、異分野における組織間連携の実践を円滑に実施するための要件について、研究開発プロジェクトの構造的理解を通して明らかにすることを目指している。

本研究では、2009年から2013年に実施された最先端研究開発支援プログラム(FIRST プログラム)を対象として、本プログラムが助成する研究開発プロジェクトに見られる構造的特徴を抽出した。また、FIRST プログラムにおける知的財産創出のベストプラクティス事例である「ナノバイオテクノロジーが先導する診断・治療イノベーション(NanoBioFIRST)」の事例分析を実施した。本事例はCOI プログラムにおいて川崎市産業振興財団が中核機関となり運営している研究開発プロジェクト「スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点(COINS)」の前身に相当する研究開発プロジェクトであり、主要な参加メンバーが共通している。当該プロジェクトの実施期間中に創出された学術論文及び特許に関するデータを使用し、共著者・共同発明者の関係を元に研究者間の連携を表現するネットワークを構成して研究者間の連携の様子を可視化した。

今後はCOINS 拠点に対して同様のネットワーク分析を実施し、研究開発拠点マネジメントにおいて有用な洞察を得るためのより詳細な分析を実施する予定である。また、将来的な展望としては、他のCOI プログラムの採択拠点についても論文等の成果情報に関するデータを利用することが可能であれば同様の分析を実施し、拠点間での比較分析を実施したいと考えている。拠点間比較により各研究開発プロジェクトに共通する構造を抽出することで、COI プログラム全体の改善へと展開できればと考えている。